The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	高大接続入試改革について
Author(s)	川内, 正
Citation	高大連携物理教育セミナー報告書. 2016, 27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/54449
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

高大接続入試改革について

大阪大学全学教育推進機構　　川内　正

中央教育審議会答申（平成 26 年 12 月 22 日）　　高大接続改革答申
新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた
高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について
～　すべての若者が夢や目標を芽吹かせ，未来に花開くために　～

その内容

教育改革における「最大の課題でありながら実現が困難であった「高大接続」改革を，初めて現実のものにするための方策として，抜本的な改革の提言

厳しい時代を乗り越え，希望に満ちた未来を歩めるようにするため，「待ったなし」で進めなければならない。

過去の学習指導要領の改訂に際しては，
「ゆとり」か「詰め込み」かのような二項対立的な議論があった。
これを乗り越え　平成 19 年学校教育法改正で
学力の三要素　「基礎的な知識及び技能」
「これらを活用して課題を解決するために必要な
思考力・判断力・表現力等の能力」
「主体的に学習に取り組む態度」
から構成される「**確かな学力**」を育むことが示された。

これを目指し，小中高で努力が重ねられている。
大学で「アクティブラーニング」の充実などに向けた教育改善が図られている。
しかしながら，現状の高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜は知識の暗記，再生に偏りがちで，思考力・判断力・表現力や，主体性を持って多様な人々と協働する態度など，**真の「学力」が十分に育成評価されていない**。
活力のある，行動する高校生が評価されずに切り捨てられている。

新たな時代に対応するための教育の在り方や高大接続の在り方を見いだすことが不可欠

現実を詳しく見ると

・選抜制の高い大学へ生徒が進学する高校では SGH,SSH などこれからの時代に必要な力の育成を見据えた取組も多く見られる。
・選抜制の高い大学への入学者数を競うことに偏っている高校では,受験のための教育や学校内に閉じられた同質性の高い教育に終始する。
・従来型の学力で中間層の生徒の多い学校では，受験勉強が学習への動機付け。しかし，少子化で入り易くなったので，自主的学習なしに，選抜制が中程度の大学に送り出している。主体性，目標がないので，大学でもそのままになっている。
・通学・卒業に手一杯の高校は，入学者選抜が機能しなくなっている大学に送り出す。大学では教育の基礎が不十分という問題がおこる。
・大学は AO 入試，推薦入試が本来の趣旨に沿わず，入学者数確保の手段となっている。

いい方を変えて
・高校教育が生徒に共通に身につける**学力が確保されていない**。
・大学では学修時間が短く知識の伝達に留まり，学生に**付加価値を付けていない**
・大学の選抜も丁寧な評価より**学生確保が優先され**，高校で培ってきた力，大学教育に必要な力を評価していない。
・一度限りの一斉受験で一点刻みで問う問題の点数が客観的だとする**「公平性」の観念**が社会に根付いている。

方向
・18 歳人口が減少に転じる平成 33 年を目の前にして高大接続の改善が不可欠。
・高大接続は全高校生大学進学ではない。入試改革のみの改革ではない。知識技能の習得を無視する改革ではない。
・高大それぞれの段階で必要な力を身につけ，次の段階へ進むようにするものである。

→　**高大接続改革実行プラン**を進める。

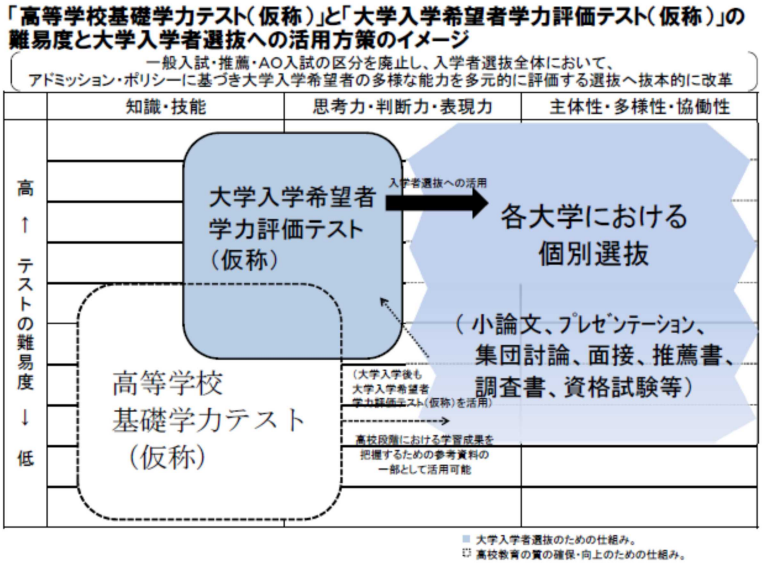
その内容は
　　高大接続システム改革会議（第 4 回）「中間まとめ（素案）」H27.7.13 も組み込んで

・高校では　**指導要領改訂**
　国家社会の形成者となり，自分の夢や目標を持って主体的に学ぶ。
　課題の発見と解決に向けた主体的･協働的学修･指導方法である**アクティブ・ラーニング**へ飛躍的充実
　教育の質の確保･向上を図るため**新テスト「高等学校基礎学力テスト」の導入**
　　段階別評価　CBT　　（進学時や就職時に基礎学力の証明）　（当面は必履修科目）

・大学では，大学教育全体としてのカリキュラム･マネージメントの確立
　主体性を持って多様な人々と協力して学ぶ**アクティブ・ラーニング**を

大学入学者選抜については　「知識･技能」を問う問題が中心の大学入試センター試験を廃止し，思考力・判断力・表現力を評価する**新テスト「大学入学希望者学力評価テスト」**の導入
　新テスト
　　合教科･科目型，総合型の試験（国英理の組み合わせ）　高難度出題を含む
　　記述式含む　年複数回　段階別評価　CBT
　　英語は４技能を見る　民間検定試験の活用

「人が人を選ぶ」個別選抜　**多面的な選抜方法を　「協働して学ぶ態度」を評価**
　アドミッション･ポリシー策定の法令上の位置付け　　「公平性」より「公正性」
　　大学入学希望者学力評価テスト，小論文，面接，集団討論，プレゼン，調査書（基礎学力テストの結果記入），活動報告，資格検定顕彰の記録等を活用



具体的には，一般入試，推薦入試，AO 入試の区分廃止し，共通的な新ルール　選抜実施要項の抜本的見直し，アドミッション･オフィスの強化

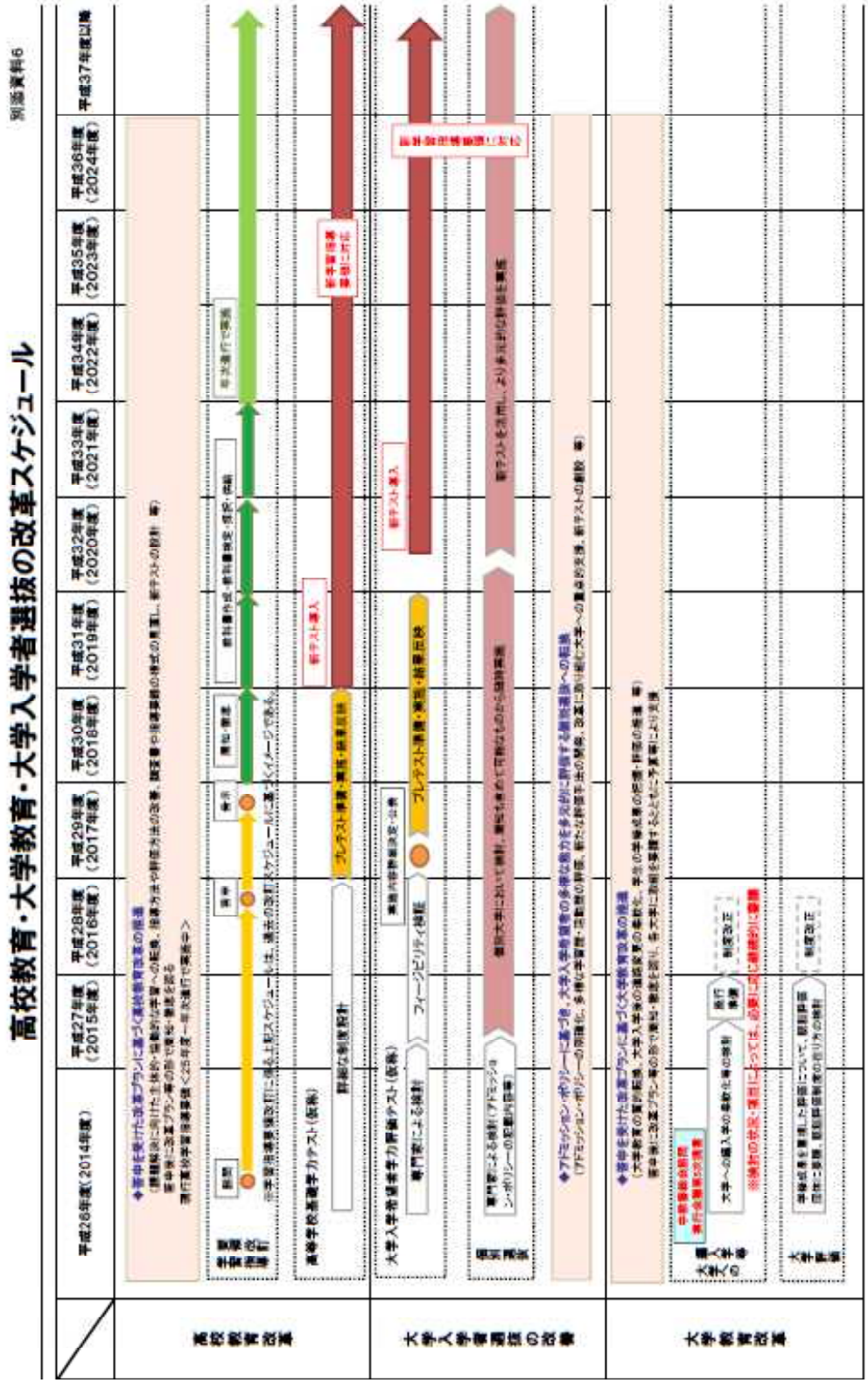
リーダー養成大学
中程度の大学
AO 入試が本来の趣旨に沿っていない大学

職業訓練大学

大学での評価方法の改善　パフォーマンス評価，ルーブリック，ポートフォリオ評価
大学は三つのポリシーを一体的に策定した教学マネージメントを確立するよう法令的位置付け
ディプロマ･ポリシー，カリキュラム･ポリシー，アドミッション･ポリシー
これまでの授業の方法内容，卒業認定基準はポリシーの概念に一致しない。
多様な背景を持つ受検者（年齢，性別，国籍，文化，障害，地域，家庭環境，専門学校，再チャレンジ，帰国生徒，卓越した才能）に対応を

高校では
合教科･科目型，総合型科目で評価する思考力・判断力・表現力の育成は現行指導要領でも謳われており，**現行指導要領下で並行的に進めることは可能**
定着には指導要領改訂，調査書･指導要録の様式の見直し，教員の資質･能力の向上に向け養成･採用･研修の改善が必要

新テストのスケジュール
基礎学力テスト：H31 の第 2 学年（現中 1）から
学力評価テスト：H32 の第 3 学年（現中 1）から　　以上は現行指導要領下
新指導要領　　：H34 より年次進行
H35 から基礎学力テスト　H36 学力評価テスト


別添資料6
高校教育・大学教育・大学入学者選抜の改革スケジュール
平成26年度(2014年度)
平成27年度(2015年度)
平成28年度(2016年度)
平成29年度(2017年度)
平成30年度(2018年度)
平成31年度(2019年度)
平成32年度(2020年度)
平成33年度(2021年度)
平成34年度(2022年度)
平成35年度(2023年度)
平成36年度(2024年度)
平成37年度以降
高校教育改革
大学入学者選抜の改革
大学教育改革